

「勝って校歌だ」善通寺一

白球を追って

2020 夏



高校野球で勝利校だけに許されるグラウンドでの校歌斉唱。選手とスタンドが一体となり、歓喜に浸る瞬間だ。今夏、この校歌に特別な思いを込めて県大会に臨むのが善通寺一ナイン。「絶対に勝って、球場に響かせたい」と闘志を燃やす。

体育館に掲げられている校歌の前で初戦突破に闘志を燃やす善通寺一ナイン＝善通寺一高

同校の校歌は1951（昭和26）年に制定され、70年近く歌い継がれている。今年、歌詞やメロディーが変わったわけではない。ナインが注目しているのは、校歌を作曲したのが古関裕而さん（1909～89年）だからだ。

古関さんは今春放送が始まった朝の連続テレビ小説「エール」のモデルとなっている福島県出身の作曲家。夏の全国高校野球選手権の大会歌「栄冠は君に輝く」など数々の名曲を生み出した。全国各地の校歌も数多く手掛けていることが知られているが、実は県内では善通寺一だけという。

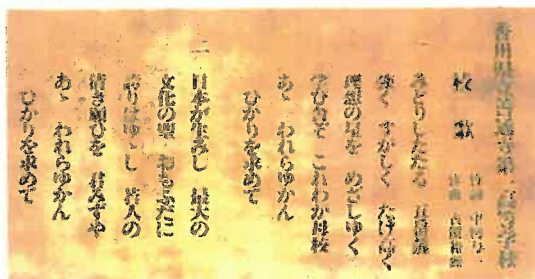
同校によると、詳しい経緯は不明だが、元々は私立だった同校が戦後、県立に移管される際、県立の初代校長が上京した時に古関さんに依頼したらしい。

これまで校歌の作曲者を意識したことはなかったナインだが、テレビ放送の開始と同



古関裕而さん（福島市古関裕而記念館提供）

県内唯一、古関裕而さん作曲 朝ドラモデル



善通寺一高の校歌

時に校内で話題となり「今、注目されている作曲家。メロディーも歌詞も好きだった」が、一段と愛着が湧いた。この夏、多くの人に校歌を聞いてほしいという思いが強まった。

チームは部員不足のため、春の県大会（中止）は飯山と連合チームを組んだ。今春、新たに1年生6人が入部。部員は18人となり、夏の単独出場がなかった。

今大会は、新型コロナウイルス感染症防止策として、例年のような大声を出しての校歌斉唱は自粛となり、放送での「校歌演奏」という形に変更された。それでも、校歌に対する誇りは変わらない。大林優希主将は「学校の代表として戦い、勝てば流してもらえ。絶対に勝ちたい」。粘りの全員野球で、まずは初戦の高松西戦に全力を傾ける。

＝随時掲載＝